

科目名	教育心理学特論	担当教員	仁平義明
科目属性	専門科目 B	単位数	2 単位 (面接 0.5 単位)
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <p><b>【授業の概要】</b></p> <p>「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」という教育基本法に記載されている「教育の目的」が示すように、学校が知識伝達・知識形成の場であると同時に、テキストの題「こころを育てる」場であることを理解するのが、この特論の底に流れるテーマだといえる。</p> <p>とくにこの授業は、学部段階の教育心理学の教科書でほとんどあるいは深くは扱われなかった「格差」「子どもの心の回復力（レジリエンス）」「いじめ」「早期教育」「幸福感」など学校教育の背景にある重要な問題について学修する。</p> <p>(1) まず、授業計画にそってテキストの各章・節の内容を熟読し、理解する。</p> <p>(2) 必要に応じて参考資料を自分でもダウンロードしたりして読み、知識を広げる。</p> <p>(3) 求められた課題をレポートにまとめ、教員からのフィードバックによって、理解を深める。</p> <p>(4) スクーリングでは、最新の状況について実験データなど根拠となる資料を知るとともに、研究法についても学習する。</p> <p>(5) 科目修得試験では、教科書、レポート、スクーリングでの学習を総合した知識を問う問題に答える。</p> <p><b>【授業の到達目標】</b></p> <p>「教育心理学特論」は、学部段階の「教育心理学」で学んだ基本的な知識について最新の知見をもとに理解を深めること、また、教育現場で直面するさまざまな問題の解決をはかるスキルを形成することを目指している。さらに、必要となったときには教科書、文部科学省や教育委員会の指導書、マニュアルや参考資料に頼るだけでなく、自分でも学校場面での教育心理学的問題を解明し解決する方策を研究し、解決策を見つけられるようになることもゴールである。このように、大学院での学修は最終的には「研究的視点も持った実践家」(researcher-practitioner)になることを目指している。</p> <p>授業の主なテーマと下位の目的は次のようなものである。これらすべてが教科書に書きつくされているわけではなく、参考文献や自分で検索した文献も読み込むことで、はじめて達成できるものである。</p> <p>(1) <b>【発達と教育】</b> 発達段階の意味を、たんなる発達の理論としてではなく現実の教育に関係づけて考えられるようになる。</p> <p>(2) <b>【学校不適応と教育相談】</b> 学校不適応や障害が問題を引き起こすしくみを理解し、教育相談の方策に結びつけることができる。</p> <p>(3) <b>【認知的学習の理論：学習の動機づけ】</b> 複雑な知識の学習を認知心理学の視点から考えられるようになる。と同時に、学習への動機づけに関係するさまざまな概念を実証的な根拠に基づいて理解する。</p> <p>(4) <b>【いじめと子どもの関係の調整】</b> いじめの解決も含めて、学級の子どものどうし関係を調整するための知識を獲得する。</p> <p>(5) <b>【授業法とその原理】</b> 多様な授業法とその原理を理解する。</p> <p>(6) <b>【根拠に基づく教育のための研究法と教育評価法】</b> 「根拠に基づく教育」を目指すために教育心理学の基本的研究方法や教育評価の方法、テストや検査に必要とされる信頼性・妥当性などの概念について、きちんとした知識を身につける。</p> <p><b>【授業計画】</b></p> <p>第1回：教育心理学の課題は何か、またどのようにして研究をしたらよいかを学習する。</p> <p>第2回：発達という概念、なぜ発達段階が存在するのかという根本的な問題、さまざまな発達段</p>			

階の考え方のちがい等について理解する。

第3回：ピアジェの発生的認識論と新ピアジェ派の考え方について理解する。

第4回：学校不適応や教育相談について理解する。

第5回：特別支援教育について理解する。また、教育での「アセスメント」という言葉の意味をきちんと理解する。

第6回：比較的単純な学習の形態である2種類の条件づけについて再度学び、条件づけの応用までを理解する。

第7回：学習の基礎としての記憶について認知心理学においてどのような展開があったかを知る。

第8回：条件づけのような単純なかたちの学習とは異なる、複雑な知識の学習について認知心理学はどのような考え方を発展させてきたかを理解する。

第9回：学級集団というものの機能や意味を理解する。

第10回：学級集団の病理現象としてのいじめについて理解する。

第11回：授業理論と授業形態の概要を理解する。

第12回：教育における教師の本質的な役割を理解する。

第13回：ICT (Information and Communication Technology) を教育の中でどう活用したらよいかを考える。

第14回：教育評価の機能、方法、必要な条件について広く理解する。

第15回：「教育データと分析結果の見方」を学習し、「根拠に基づく教育」を行おうとするときの基礎力を身につける。

○科目修得試験

#### 【評価方法】

スクーリング評価 (25%)、レポート評価 (25%)、科目修得試験 (50%) を総合しての評価となる。

#### 【教科書】

子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司著『教育心理学 (第3版)』有斐閣 2015

ISBN 978-4-641-07245-9

#### 【参考図書】

\*以下のものは、参考書・参考資料の例であって、必ず参照しなければならないわけではない。この他にも、自分で必要な文献は検索して学修すること。

(1) 鎌原雅彦・竹綱誠一郎著『やさしい教育心理学 (第4版)』有斐閣 2015

\*学部段階での「教育心理学」を全体的に復習するのに好適なテキスト。このテキストは、平易な表現で、教育心理学の標準的な内容を網羅しており、図表が豊富なので内容が理解しやすくなっている。図表やコラムにも根拠になるデータが明示されている。

(2) 東條吉邦・大六一志・丹野義彦編著『発達障害の臨床心理学』

東京大学出版会 2010年

\*「第3章：適応と障害の理解」の参考書。発達障害について、とくに教育と臨床という観点から全体像を知りたいときには最適の書。

(3) 子安増生・楠見孝・齋藤哲・野村理朗 (編). (2016). 『教育認知心理学の展望』, ナカニシヤ出版.

\*「第1章：発達過程の理解」(4 最近の認知発達理論)、「第5章：認知心理学の観点からみた学習」の参考書。認知的な観点からの教育心理学の解説がされている書。

(4) 仁平義明 (2013) 「“サイバーいじめ”に関する研究の動向—対応のためのエビデンス—」平成24年度 白鷗大学情報処理教育研究センター年報, 1-7.

\*「第6章：学級集団の理解」の参考資料。ネットいじめやいじめ対応の先進国フィンランドのいじめ対応プログラムが解説されている。CiNiiでもGoogle ScholarでもPDFは入手できないので、希望者にはメール添付で提供する。

(5) 仁平義明 (2017) 「傍観者に焦点をあてた“いじめ対応”プログラムの効果量 (effect size) に関する研究と実践の現状」『星槎大学紀要 共生科学研究』, 13号, 53-66.

\*星槎大学のサイトからダウンロードできる。論文単位ではなくて、一冊まるごとのPDFになっているので注意。